

はばたけ

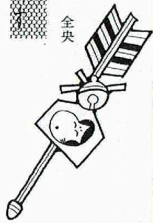
No. 27

榊木隆彦の自立もぎす会
発行責任者 中山、全央
発行所 榊木隆彦会
020-23-2326
発行日 1988. 1. 5

私達は
隆彦さんが地城の人々と共に
いさぎよきと生活していきける
「村づくり」をすすめてい
ます。

確信の年

中山 全央



會員の皆様には、心新たに一年間の目標を持たれたことと思います。昨年中には皆様のご協力もあって、栃木県社会福祉協議会の一橋の実基金への援助、前川報恩会のロッケマシン購入資金援助、共作連フキンの製造・販売など、活動内容も作業所建設に向けての準備が具体的になってきています。本会は発足来、障害児、者が人間として尊重され、さらに一人一人が個性ある発達を遂げられるよう業人ながらただただ進んでまいりました。これは個人の力で作り得るものでなく、会員

の互いの力で支えてきた賜と考えたいです。本当にありがとうございます。この間の自己犠牲と自己の努力は言うに及ばず、思う言を行動として互いに理解する取り組みがあつて前進した実感をはひしひしと感じたことは本会の宝です。さて、年頭にあつて、本年は本会にとつて「確信の年」と思っています。平成六年には三名の女子の卒業者を迎えるには、借家であつても働く場の確保(具体的検討中)、指導員の検出法、授産科目的の選定、運営資金の検討

など、まことに確信を持つて歩まなければならぬものばかりです。平成七年建設予定の福祉施設との関係を考えるに頭が混乱してしましますが、それと切り離して考え、将来不足する施設と親亡き後のことを展望するに、作業所を建設する取り組みは最も重要な取り組みとなつてきています。理想と現実とはまことに敵いとは思いますが、ここまで積み上げられた諸活動に自信を持ち、さらに一人一人の発達を保障しようとする親の願いを全面に押し出して、そうした中で、現在土地の確保の問題と他団体との協力もと必要と痛切に感じています。本年は、事務局会議の定例化、役員会の開催など、団結、総意工夫、民主的討論をかたく決意して、年頭の挨拶といたします。

市内各催して、すっかりお馴染み
にはった。自立の会のお出店。

今回は、蔵の街音楽祭と、ふい
あいのつどい、参加者の声をい

十月十日 蔵の街音楽祭

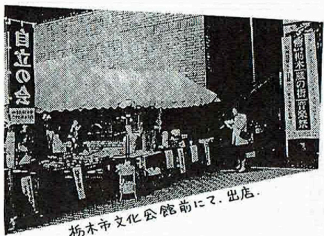
の出店を手伝つて、 渡辺 洋子

日頃のご無沙汰を、一気に解消しよう
と張り切っていたのはいいのですが、
前日の夜、きんぴらごぼうを作ろうと
して包丁でおもいきり指を切つてしま
いました。当日は、ちよつと触つても
痛くて、コロッケを作るという山のよ
うなジャガ芋とタマネギの前で、しば
し嘔然としてしまいました。ようする
に、あまり役にたたなかつたのです。
でもお手伝いはいつもつても楽し
いです。障害を持った(私はあんまり
この言葉は使いたくないのですが)子
供たちが自立できるようにと頑張つて
いるお父さんお母さんを見てると、
いつも私の方が励まされます。そして
私の子育てにも、とつてもプラスにな
つてお手伝いさせていだきます。
よろしくおねがいします。

「蔵の街」の売店を手伝つて

須黒 雪枝

蔵の街音楽祭の文化番の野間響とは
うつつ変わつて、自立の会ではぎや
かに、入り口でコロッケパン・ポルシ
チ・コーヒー・いちごミルク・わたあ
め等の販売をうけもりました。大
慣れた手つきでコロッケを揚げる父さ
ん、大鍋四つに野菜を満載する母さん



榊木市文化会館前にて、出店。



榊木ふれあいのつどい
鬼太郎より

前日の雨もあがり、晴天に恵まれて
十一月二十二日(日)、「榊木ふれあ
いのつどい」が市運動公園わんぱく広
場に行なわれました。自立をめざす
たくさんの模擬店の中、自立をめざす
会も、もち・ポテトフライ・コーヒー
・わたあめを出店、盛況のうちに終わ
ることが出来ました。ご協力いただ
いた皆様、ありがとうございました。

自立の会の仲間、殿塚はる恵さんの妹・康子ちゃん（柄一小六年）が書いた作文を紹介します。この作文は、昨年十二月栃木県および県教育委員会並びに同和对策推進県民会議の主催で開かれた「人権に関する作文コンクール」において、三千四百点をこえる応募の中から、優秀賞に選ばれた作品です。姉との関わりを通して、生きることの価値観と、社会や世界を見つめる確かな目を感じさせる作品です。

姉をめぐって

殿塚 康子



「ねえ、お母さん。五級受かったから、スイミングスクールやめてもいいでしょう。」母にはそんな事を言っても、私は大好きだったスイミングスクールをやめてしまいました。姉は、養護学校に通っています。その姉と二人で、少しでも上手に泳げるようにと、仲良く通いはじめたスイミングスクールでした。いつになく上機嫌の姉は、「オーイ！オーイ！」と呼びながら、水の中ではしゃいでいます。私は（お姉ちゃん、楽しんでるに違いないな）と思って見ていましたが、回りの人はそうではありませんでした。

姉の方を見て、そこそ話を合っている人達、じろつと姉をにらんでいる人達、姉を指差して、大声で笑っている人達、私は、自分自身が見られているように、血は逆流し、顔は熱くなり、目の前が真っ白になるのを覚えました。姉のした事は、そんなに悪いことなのですか、そんなに変わったことなのですか、こんな悲しい心の人達と水泳するのがつらくなり、私はスイミングをやめたのです。母に、

「お姉ちゃんが、いじめられるのを見るのがつらいから、水泳やめてもいいでしょう。」と言えなかったのは、母にも私と同じ苦しみ味わわせたくなかったからでした。しかし、今考えると、「やめる」という事は、私の逃げたかったのかも知れません。姉がかわいそうだな。あんな冷たい視線を二度と浴びさせたくないという気持ちも、もちろんありましたが、もっと強い心で、みんなに姉の心を解つてもらえる努力をすべきであつたと思います。姉のかわりに、「笑うのはやめて！」。姉は一生けん命練習しているのですから。」

姉は、自立をめざす会のメンバーとなり、一人で生きていけるよう、料理を学んだり、ミシン毎日練習したり、精一杯努力し、毎日日記を書いています。

一字一字心をこめて力強く書いている姉の姿は、本当に美しく思います。確かに、「あ」という文字を覚えるのに何日もかかりますが、全身を使って学ぼうとする意欲は、私だつて勝てないくらいです。障害を持った人も一生けん命に生きています。ただ育つていく速さが少しだけゆっくりな

だけなのです。私も姉を助け、いつまでも幸せに暮らせるよう、共に生きていけるかと思っています。そして、この世界の人々が、障害者を障害者として受けとめるのではなく、ごく普通の人と受けとめ、誰もが平等に生きる世界にしたいと思います。



『ゆうの家』もともど利用して

谷田 美佐子

「ゆうの家」が開所して早二年半。はじめは、①会員相互、会員と地域の人達との交流の場。②リサイクルショップとして資金づくりをする。③という事を大きな目標に活動してきました。そしてその目標は十分に達成していると思えますが、少しづつ状況も変わってつづきます。あと一年余で三名の子どもたちが卒業をするという時期、「ゆうの家」は今、作業をする場所として機能しはじめています。昨年、工業用ミシンとインタロックミシンを購入した。「共作連ふきん」づくりを始めました。今のところはお母さんたちを中

心に行なっていますが、どのようにとら字どもたちがその作業に関わっているか工夫しながらの毎日です。また、ふきんづくりをする事により、今まで以上に協力者が増えて（会員、会員外とも）、「ゆうの家」が狭く思える日もあります。今年は今もう一つ自主製品づくりに取り組んでみようかとと会員たちで話し合っているところで

「ゆうの家」が、もともつと多くの人達に利用しやすいように工夫していきたいと考えています。

法人施設の進行状況

中山 全央

前報報告の後、準備会で東京都の施設の見学、施設職員二名をかこんでの一般的な学習の経過を得て、十一月二十六日、建物の設計・自己資金づくりについて会議が開催されました。

基本設計は、前日より第一、第三作業室まで増え、能力別に作業形態が出来るようになりました。採光も良くなり、二階建といった難点はあるものの全体的に作業しやすくなった基本設計でした。

自己資金確保の討議、追加理事の承認、建設資金の総額の検討をする上で、内部備品の検討の後、新年早々に法人理事を召集して、法人化のための会議が召集される見込みです。



今週の目録

93年			
1月	6日 PM 7:30 ~	事務局会議 (中山宅)	
	9日 PM 7:30 ~	第一回役員会 (事務所)	
	16 AM 9:00 ~	PM 7:00	妙唱寺大黒天
	~17日 AM 9:00 ~	PM 4:00	
	30~31日	全障研会議 (小山商工会議所)	
2月	3日 PM 7:30 ~	事務局会議 (中山宅)	
	6日 PM 7:30 ~	第二回役員会 (事務所)	
	21日 AM10:00 ~	日曜作業所	
3月	3日 PM 7:30 ~	事務局会議 (中山宅)	
	6日 PM 7:30 ~	第三回役員会 (事務所)	
	20日 AM10:00 ~	日曜作業所	
	31日 PM 7:30 ~	事務局会議 (中山宅)	
4月	3日 PM 7:30 ~	第四回役員会 (事務所)	
	17日 PM 7:30 ~	第五回役員会 (事務所)	
	25日	自立の会総会	

好評 手打うどんの 妙唱寺大黒天

1月16日(土)~17日(日)

お手伝い募集中!
よろしくお願ひしよ~す。



自立の会では、日曜作業所を手伝ってくださる方、
『ゆうの家』を手伝ってくださる方を広く募集
しています。下記までご連絡ください。
月~金 10:00~15:00
『ゆうの家』0282-24-5986
上記時間外は、0282-23-3236 中山まで。



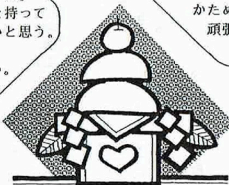
新年の抱負



息子が片言で「とおたん」と言う度に
にっかりしなればと思ひ
つつ目尻が下がる。昨年は
ちよつと羽を休めすぎ
た気がする。今年は
はばたくぞ~!
(鈴木)

今年が正念場かな?
と思います。そのため
に早急に、足腰をしっかり
かためなおして
頑張ろうと思います。
(島田)

昨年はただ漠然と
過ごした様な気がする。
今年は、何か目標を持って
有意義な年にしたいと思う。
一日一日を大切に、
前向きに行動したい。
(新沢)



『うたごえは
生きる力』を
実感した昨年末。今年は音
楽を通して子どもたちと心を通
わせてみたいと思います。(谷田)

今年は今までの中
一番、決断をせまられる
年になりそう。今以上に
頑張ろう!!
(鬼太郎より)



地域との連帯を深める意味でも、「ゆうの家」を開所して早いもので三年を迎えました。心新たに、福祉ショップ・リサイクルショップとしての意味を深く考える必要性を感じた折、昨年県社協に、「栃の実基金」助成申請をしたところ、「栃実市社協」の援助もあって「ゆうの家」運営の助成として年五十万円が補助されることとなりました。ただし、運営委員会の設置、日曜作業所の実施、会計報告・実施報告の義務を負うが、これを実施すれば五年間にわたって補助対象となるので、今後は県内外の諸施設との連帯を深め、福祉施設の生産品を地域に広げ、「栃の実基金」の趣旨にそう努力し、ひいては本会の目標である地域に根ざした活動強化の拠点となるようにしていきたいです。

「栃の実」基金

中山 全央

ゆうの家の
年間50万円の助成金